

平成25年度第3回奈良市環境基本計画推進会議 会議録	
開催日時	平成26年2月3日（月）午後1時から3時まで
開催場所	奈良市役所 北棟6階 第22会議室
議 題	1 「奈良市環境基本計画（改訂版）」平成25年度（平成24年度実績）評価の 取りまとめ（案）について 2 今後の予定について
出席者	委 員 小松原座長 遊津副座長、井上委員、岡野委員、小嶋委員、清水委員、西 岡委員【計7名出席】
	事務局 環境部 大西参事 環境政策課 新井課長、油谷課長補佐、杉本係長、吉留主務補
開催形態	公開（傍聴希望なし）
担 当 課	環境部環境政策課
議事の内容	
1. 「奈良市環境基本計画（改訂版）」平成25年度（平成24年度実績）評価の取りまとめ（案） について 「奈良市環境基本計画（改訂版）」掲載の各施策に関する平成24年度実績に対して、委員から評 価いただいた結果の取りまとめ結果について報告。前回会議からの継続案件であり、シートNo. 18 からの審議となった。	
[質疑・意見の要旨]	
○取りまとめ案について No. 18 ごみ搬出量（再生資源搬入量を除く） ⇒ <u>取りまとめ案について承認</u>	
No. 19 産業廃棄物の最終処分率 ・6月末が期限の産業廃棄物管理票（マニフェスト）の報告は市に提出されているのか。 →市の事務であり、毎年提出されている。 ・達成度や波及効果のスコアについては、現状でも最高の4点でもよいと思うが、どうすれば4点に なるのだろうか。 →最終処分率の理想としては0%であるが、実態としては5%ぐらいが妥当であると思う。現状が低 いのは、廃棄物の大半が水道の汚泥であることが大きい。汚泥は肥料等への再生利用が大半であ る。実際の数値としてはこの辺りが限界となると思われる。 →企業では、最終処分率を2%程にできれば実質ゼロエミッションとしているところが多い。 ・下水の汚泥中の有害物質等はどう扱っているのか。通常は熱処理等されているが。 →下水の汚泥と水道の汚泥とは量が違う。下水汚泥は熱処理等した上で処分場へ運ばれている。 ・24年度の結果はいつわかるのか。 →担当部署ではないので名言はできないが、近いうちに出ると思う。 ・単年度目標値と実績比較であれば100%になって、達成度も最高点になるので、単年度目標を入 れてほしい。そういう形であれば、担当課も胸を張って実績を報告できるのだが。 ⇒ <u>取りまとめ案について承認</u>	

No. 20 不適正処理（不法投棄、野外焼却等）件数のパトロール総箇所数に対する割合

・建築廃材が多いとあるが、建設行為には許可があるので、マニフェストとの突き合せをすれば行為者特定に役立つと思う。

→産業廃棄物は広域移動しているものもあり、完全な照合は難しい面がある。

→奈良市内の分だけでもやってもらえれば。

→建設リサイクル法の届出は行為の規模要件もあるので、届出要件未満のところで、財力の弱い業者が不適正処理をしている面もあるようである。

⇒取りまとめ案について承認

No. 21 不法投棄警告センサー設置箇所数

・単年度で考慮すれば達成度は100%となり、最高点になる。

⇒取りまとめ案について承認

No. 22 アダプトプログラム活動団体数

・課題で3番目に挙げられている点について、協働推進課ということもあり、その姿勢は素晴らしいと思う。実際に実施できるかが大切である。

→この点については、実際に行うのは難しい面があると思う。アダプトプログラム事業自体は費用対効果が大きい事業である。

⇒取りまとめ案について承認

No. 24 下水処理施設の耐震化率

・下水処理施設の統廃合案はまとまっているのか。

→水道局と下水道室の組織統合は次年度からであるので、新組織による施設の統廃合に併せて、継続する施設の耐震化を進めていくことになる。

⇒取りまとめ案について承認

No. 25 耐震性貯水槽の設置数

・ため池の活用に関して消防局は検討しているのか。

→消防局としては検討していないが、地域の消防団で防火用の利用を考えているところはある。

その他、学校のプールの利用などがある。飲み水としては井戸の利用が挙げられる。

⇒取りまとめ案について承認

No. 26 自主防災防犯組織結成率

・結成された組織は有効に機能しているのか。

→訓練を実施している組織もある。

・地域住民が存在を知らないという実態もある。連合会に入っていないければ情報が入ってこない。

→役員のみで訓練等実施している地域もある。

・地域によっては、日中家にいることが多いという前提の下、婦人が担い手となっているところもあるが、会合を夜に行うなど、ある意味で矛盾している点が見られる。

・自治会は任意団体であるため、加入していない住民に情報が届かないという問題がある。

- ・自治会だけの対応では限界もあるという点も、この集約案では押さえられている。

⇒取りまとめ案について承認

No. 27 市民1人当たりの都市公園面積

- ・資料の変更点：前回会議時点から、その後に提出された意見とスコアを反映。No. 29も同様。
- ・奈良公園は含まれているのか。
→含まれているが、あくまで「公園」の集計のため、緑地が多いと思われる神社等の施設は含まれていない。緑地について考慮すると、それらの施設を加えると緑地の割合としては増加する。
- ・公園を増やす等の施策に都市計画課は関与しているのか。
→公園緑地課は、公園を造るというよりも、開発行為で造られた公園の維持管理を進めている面が大きい。小さな公園が増えている状況である。大きな公園を造るという考えをもってもよいと思うが、そこまで至っていないというのが現状である。

⇒取りまとめ案について承認

No. 28 グリーンサポート制度による公園管理率

- ・清掃等を担っているという認識でよいのか。
→そのほか、草刈りなどの維持管理を担っている。地域住民が担うことで、行政としては経費節減、地域住民にとっては自らの維持管理を通して愛着がもってもらうのが狙いである。花を植えたりしているところもある。
- ・花は市が支給したものを植えているようだが、自分たちで用意したものを植えるのに、と言っている方もいる。

⇒取りまとめ案について承認

No. 29 パークアンドライド駐車台数

- ・駐車台数を増やすという点について、駐車場が少ないという認識なのか。
→現状は駐車場が足りないという状況ではないが、広報を通して認知度を上げる必要がある。利用者は増加している状況である。
- ・キャパシティはどうか。
→まだ大丈夫と思われる。利用者増加についての補足であるが、今年度はポイントラリーを実施していた。
- ・地域協議会の取り組みの中でも、この事業について考察、事業の展開について検討を進めていく必要があるといえる。また、対象・目的を明確にして展開していくのが重要である。

⇒取りまとめ案について承認

No. 30 パークアンドサイクルライドの利用者数

- ・成果が上がっているということが新聞でも掲載されていた。
- ・利用者が増えてくると、事故という問題も出てくる可能性があるため、自動車道の整備など、安全面での対策も必要である。

⇒取りまとめ案について承認

No. 31 幼稚園・小学校での環境出前講座開催数

- ・ECOキッズ事業については含まれているのか。

→今回の評価委については、24年度の事業が対象のため、出前講座のみが対象であり、ECOキッズは含まれていない。25年度に開始したECOキッズを含めると、目標は達成する、むしろ大きく超えることになる。

⇒取りまとめ案について承認

以上をもって、25年度評価の取りまとめ案について承認を得た。

その他評価に関する意見等

- ・施策別、項目別の評価に終始しているため、それを見直すのか、継続するのかの議論が今後必要になってくるのではないかと、思う。総括的な評価や、施策別の評価の積み上げによるミスリードが懸念されるので、そのリスクヘッジも必要になってくると思われる。

- ・委員の中でも、各施策に対して詳しくはない分野・部分があるので、そういう状況で総括をまとめるとなると、少し難しいと感じる部分もある。

→事務局としては、審議会で座長報告をする場があるので、評価が高かった施策、今後の努力が必要な施策について報告してもらえれば、と考えてはいる。

- ・ISOのマネジメントでは、取り巻く環境の変化を捉えているかどうか、利害関係者の視点の変化などを踏まえた対応ができているかをチェックしている。

- ・このような評価手法を取り入れている自治体はあるのか

→さまざまな立場の方々が集まって会議運営していく形態を取っているところがない、というわけではない。ただ、これまで2年分の評価を終え、これからどうしていくのかが重要である。

2. 今後の予定について（報告）

今後の会議の方針について、井上委員から提案いただいた内容（資料5）の説明を受けた。

- ・これまでの会議は、PDCA体制の構築、運用にあたり、各施策の実績評価を行った。しかしながら、各施策の実績点検・評価は行ったものの、今後はこれらを基にした目標値、施策の見直し等について進めていき、その結果について、各施策の今後の展開方針・予算に反映することのできるシステムを確立していく必要がある。今後は、施策や目標値の見直し結果を次年度の計画・予算に反映することのできるシステム構築が課題となる。ただ、今のサイクルでは、一年空いた形での評価となっており、(n-1)年度の評価結果を(n+1)年度の予算編成時期に報告する形になっている。実際には各部署で判断していることではあると思うが、(n+1)年度の予算編成にはn年度の施策の状況判断や評価も必要であると思う。

- ・また、指標によって単年度での評価、最終目標（主に33年度）に対しての評価と分かれている。説明しきれないところはコメントで補足する形として、基本的には単年度で評価した方が、誰が見てもわかりやすい。評価の仕組みそのものの検証も必要。検証方法、新たな評価の仕組みに関しては今後の課題となる。

【質疑・意見の要旨】

- ・重点テーマを決めた議論も必要になってくるのではないかと。
- ・方向性としてはその通りだと思う。
- ・行政のISO審査をしていたが、行政評価とISOの評価を別々に行っているところがある。議会の問題もあるのだろうが、行政評価でもISOの要件を満たしているのに。
- ・資料4に関してであるが、基本計画推進会議だけを考えれば、掲載しているサイクルでの実施は可能であると思う。ただ、9月議会が前年度決算の確定になるので、それに併せて総合計画の評価を行うことになるが、資料4のサイクルでは、総合計画より先に環境基本計画の評価をまとめることになる。調整は可能ではないかと思うが、総合計画が環境基本計画より上位になるので、総合計画での評価と、環境基本計画での評価と、結局2度の評価をすることになる。
- ・26年度には、職員向けの環境問題に関する研修を行うので、それを通して職員への意識づけを図り、各部署での施策に環境面での視点を反映できるようにしたい。
- ・過去の実績評価に関する労力と時間をこれまでより軽くして、事業の展開に対して意見を述べるのに機会を使いたい思いもある。
- ・n年度の上半期に、その半年分の評価をするというのは現状では難しい。状況報告に消極的な部署も出てくると思う。
- ・評価方法に関して、やはり単年度目標を示し、それに対する評価をすれば、達成度の評価もしやすいし、評価も高くなる施策がある。
- ・提案にある評価サイクルが確立されれば画期的なことだと思う。

今後の予定について

今回の推進会議については、26年6月～8月に2回開催していきたいと考えている。詳細については後日調整させていただくこととしたい。